

令和7年12月1日(月)

魚沼きこえの教室だより

令和7年度 第8号

長岡聾学校小出分教室(小出特別支援学校内)

きこえの教室 担当: 小池 豊

〒946-0035 魚沼市十日町 1738-2

TEL:025-792-5462 fax:025-792-5465

Email:koike.yutaka@nein.ed.jp

英語の楽しさと課題は?

BGMをかけて、わいわいがやがや楽しそうに盛り上がる小学校の外国語活動や外国語の授業。また、互いに英語で質問をしたり、答えたりする中学校のペアトーク。どちらも、英語を使ってやりとりする力の育成が目指されています。

しかしながら、そこに難聴児がいた場合、補聴器や人工内耳を着けても子音(サの場合、Sが子音でAが母音)の聞き取りは難しい場合が少なくありません。例えば、speekやmathなど、英語は子音のみの発音が多いために聞き取りは困難

です。それを補う手立てとして、例えば会話文をプリントして事前に渡したり、新出単語にカタカナをふって知らせたりするなどの視覚的な配慮があると良いと思います。電子黒板や板書を有効に活用することも大切です。

また、中学校のリスニング問題は、教室のスピーカーやCDプレーヤーから流れる音声を聞いて全員が一斉に受験する方法で行われますが、難聴児にとっては下記のような困難が生じてしまいます。したがって、それぞれの実態に応じて、「音源近くに座席を移動」「別室での実施」等の対応が必要になります。どのような配慮を望むかについては、きこえの教室でもじっくり一人一人と相談をしているところです。特に、配慮の経験がない1年生は、配慮のあるなしではどう違うのか、どのような配慮がより良いのかを体験をとおして選択できるようにしています。

- ・肉声に比べて機械音は聞き取りにくい。
- ・周囲のちょっとした雑音で聞き取れないことがある。
- ・片耳難聴は、座席の位置によって聞き取りにくくなる。

～ちょっとした雑音の例～
紙をめくる音、椅子が動く音
鉛筆で書く音、咳払いなど

マスクの季節になりました

今年は、全国的にもインフルエンザが流行したため、学校訪問をさせていただくと、マスクを着用している児童生徒や先生方が増えていることが分かります。感染予防の観点からマスク着用は仕方のないことだと考えますが、「難聴児童生徒に、マスク着用はどう影響するのか」という視点をぜひもっていただきたいと思っています。実は、こうした視点も「難聴に対する合理的な配慮」の1つと言えるからです。

ポイント

合理的配慮③ 繰り返しや理解の確認

- ・マスクを通した声は聞き取りにくく、伝わりにくい。 ⇒発言内容の繰り返しや板書が支援になります。
- ・表情も見えにくく、気持ちやニュアンスを汲み取りにくい。 ⇒通じているかの確認が有効です。